

# 介護支援の一助に

◇ 党神奈川県議団 ◇

## ロボット技術の現状学ぶ

つ。月額5万円のレンタル方式で、これまでに約100台を提供している。

「国立障害者リハビリテーションセンター研究所」を中心とした研究グループは、実際にパペロを用いて認知症患者に、あらかじめ

設定したスケジュールに従い、外出や服薬の時間を伝えたり、相手の返答を認識して情報が伝わっていない場合は再度促すなどの支援を行い、実生活場面での実証に成功している。

一方、富士ソフトは人の顔を覚えて話し掛

けたり、場所を認識して移動できる人型ロボット「パルロ」(高さ約40センチ)を開発。センサーで得た情報を基に二足歩行ができるほか、人工知能で顔や声を認識し、会話やインターネットのニュースの読み聞かせもできる。

鈴木団長らは、公明党が介護用ロボットの普及を推進してきた経緯を踏まえ、「介護従事者らの負担を軽減するため、介護現場のニーズに合ったロボット技術の活用は今後も力を注ぎたい」としている。

公明党神奈川県議団(鈴木秀志団長)はこのほど、介護支援などに役立つロボットの実用化に向け、県庁内に開発担当者らを招き、ロボット技術の最新事情などについて学んだ。これには、黒岩祐治知事も同席した。

「こんにちは」「いつでも話し掛けてね」。会場内の一行に呼び掛けたのは、NECが開発したコミュニケーションロボット「パペロ」。高さは約40センチで、顔を振るといった動きや自律的な会話能力、カメラなどのセンサー、顔認識などの機能を持



介護支援に役立つロボット技術について学ぶ  
党神奈川県議団と黒岩知事(右から5人目)